

「アサガオ“まるごと”観察(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

5年生の単元に「植物の実や種子のできかた」という単元がある。しかし、単元名がおかしい。「実」とするなら「実と種」とすべきだし、「種子」とするなら「果実と種子」とすべきである。これでは「星と惑星」、「草と樹木」、「鳥と哺乳類」の組み合わせと同じだ。私は、単元を始める前に「実と果実は同じ」「種と種子は同じ」と教えている。

この単元で活躍するのは「アサガオ」である。オシロイバナでも良いのだが、アサガオは栽培が容易で、初夏から初秋まで、毎日のように花をつける。しかも花弁が大きく、雄しべや雌しべ、それに花粉の観察も容易なので、学習材として「優等生」なのだ。

普通は「鉢植え」のアサガオを観察に使う。5年で栽培しても良いのだが、見て観察するだけなら1年生から借りても良い。しかし今年はちょっと変わった教材が手に入った。

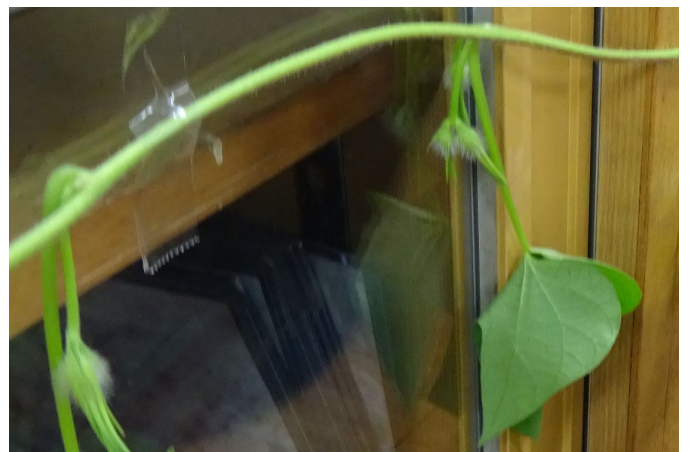
私はオシロイバナを観察に使わせようと、学校の畑を見に行った。学校園の周囲には、毎年「誰が育てるともなく」オシロイバナが繁茂し、常時数百個の花をつけているのだ。オシロイバナは夜に開花して朝にはしぼんでしまうので、そこが難点だ。しかし今年は、学校園周辺の工事の為、しばらく児童が入れなかったため、アサガオが半ば野生化して、伸びたい放題になっていた。これはすばらしい教材だ!と思った。



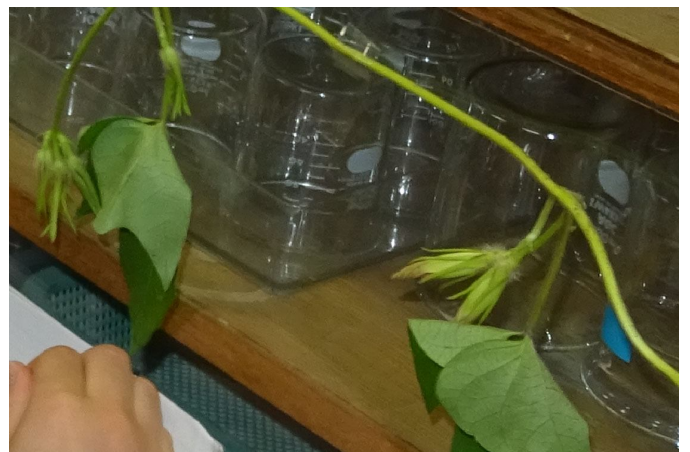
私はできるだけ根元から採取して、それを長く伸ばして、実験室の棚に「掲示」することにした。



根元から先端まで、なるべくまっすぐ伸ばして、長さを測ると、4メートル近くあった。子どもたちは、まずこの「長さ」に驚いていた。鉢植えでは支柱にグルグル巻きながらからみつくので、この「長さ」は実感できないだろう。



アサガオは、他の植物と同じで「根元」ほど古く、「先端」ほど新しい。先端には小さな葉が多い。それでもすでに、葉脇に小さな「つぼみ」を1つか2つつけていることが多い。



少し根元に近づくと、ややふくらんで色づき始めたつぼみが現れる。本来時系列で観察すべきアサガオの成長が、一度に見られるところが面白い。